

令和4年度 第3回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会 会議録	
日時	令和4年9月21日(水) 13:00～
開催場所	横浜市役所会議室
出席者	(委員) 小宮輝之委員、佐渡友陽一委員、関清美委員、藤崎晴彦委員、間曾さちこ委員 (指定管理者) 横浜市緑の協会
開催形態	非公開
<p>1 事業評価の実施方法について</p> <p>2 令和4年度事業評価(令和3年度分)職員採点について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野毛山公園のノーリード犬の団体の状況と対応、対応後の現状はどのようになっているか。 →ノーリードで犬を遊ばせているグループがおり巡回し注意していたが、いたちごっこのところがあった。巡回の時間を変えたり警察と連携したりしながら、なぜダメなのかを理解いただいたうえでノーリードがなくなるよう対応しているところである。頻度は減ってきているが継続して対応していく。 ・団体組織なのか。 →どのような組織かは不明である。自然発生的にそのような集団が発生しているのではないかと推測している。 ・ドッグランのような施設は近くにあるか。 →近くにない。 ・積極的な障害者雇用について評価しているが、雇用人数と業務内容を確認したい。 →よこはま動物園1名と金沢動物園1名の雇用である。よこはま動物園では主に庶務担当としてデザインなど管理のフォローを行っている。金沢動物園では感染症対策の消毒などを担当しており、職員が飼育業務と同時に実施するのは難しく手が回らないところにも対応し園も大変助かっている。またその他の軽作業についても職員の指示に基づき従事しているが、職員とのコミュニケーションもうまく取れており和気あいあいと楽しそうに仕事ができているという点でも評価した。 <p>3 指定管理者プレゼンテーション・質疑応答 (指定管理者入室)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物福祉の取組で計画評価シートを職員間で共有しているということだが、具体的にどのように共有を行っているか。 →職員が作ったデータをデスクで確認できる共有フォルダに入れ自由にいつでも見られる状況にしている。同時に紙に印刷し職員が使っている場所に置いて閲覧できる状況も作っている。 ・動物福祉に関して2023年にWAZA(世界動物園水族館協会)加盟園は先行してその基準への準備を行うと思うが、その対応についてどのように考えているか。 →以前は横浜市緑の協会としてWAZAに加盟していたが、現在はよこはま動物園として加盟している。まずJAZAの中で今年度内に福祉の基準に則ったチェックが行われるにあたり、国内のWAZA加盟園 	

館から先行してチェックを実施することになっている。今後その動きが国内で起こると考えておりよこはま動物園でも対応していく予定である。

- レッサーパンダの人工飼育についてのアンケートは、独自で実施したのか。JAZA（日本動物園水族館協会）を通して実施したのか。
→JAZA を通じ飼育園館に連絡を取り実施した。よこはま動物園では 17 年前にレッサーパンダの繁殖において人工飼育が成功しているが、昨年繁殖し人工飼育を行ったレッサーパンダは約 50 日で死亡してしまったためアンケートを実施した。
- 研究成果発表に関して、口頭発表件数が 28 件で令和 2 年度プラス 22 件ととても伸びているように見えるが、これは何か特殊な要因があったのか。もしくは令和 2 年度が少なかったのか。
→令和 2 年度はコロナ禍で発表する機会が少なく、令和 3 年度は通常プラスアルファの件数である。
- そのような状況であれば令和 2 年度と比べるのは妥当性が高くない。しかし 28 件というのは通常よりも少し多い感覚であることは理解した。ここはもう少し分かりやすい見せ方をしてほしい。
- よこはま動物園で繁殖に成功した事例が WAZA のニューズレターやツイッターで世界に配信されたとのことであったが、よく取り上げられることか。
→ニューズレターへの掲載は国内の加盟園館でも 1 年に 1 回あるかどうかぐらいである。内容についても新しく WAZA に加盟した会員の紹介は見たことがあるが、このような技術的な紹介は他に記憶にない。
- 多数の論文が発表されており良いことであるが、例えば ZOO よこはまへの掲載などとの兼ね合いはどのように考えているか。
→毎月実施する飼育研究会の中で掲載時期を検討するなど工夫をしている。
- オンラインシンポジウムの参加者数は想定通りの人数であったか。またどのような方が参加したか。
→初めての実施で参加者数は想定よりも多かったとの認識である。利用者の内訳は今データを持ち合わせていない。
- 利用者の現状分析については、SNS の利用者数も記載すると分かりやすく戦略的に考える一助にもなる。
- 寄附実績について、高額寄附の 3 件は皆アニマルペアレントからの移行か。
→一昨年まではアニマルペアレントに寄附していただいていたおり、動物園とコミュニケーションを重ねる中で具体的に使用用途の希望を伺うこととなった。
- 個別に先方の要望を聞くことは寄附を受領するにあたり悪くないが、できれば動物園側から希望を提示してそこにあてはめてもらうようなコミュニケーションができるとさらに理想的である。
- ホームページに寄附を紹介するリンクがあると聞いて検索したが、どこからリンクするのか分かりに

くかった。

- ・経営改善の取組について自主事業が赤字というのは理解できるが、自主事業はどのような財源を使って実施したか等についてももう少し説明を加えてほしい。

→自主事業の内訳は、動物園の普及啓発活動並びに広報宣伝活動また指定管理業務にあたらぬ動物の飼育環境の改善等である。イベント等の広報宣伝活動も自主事業の経費として計上しているが、コロナ禍によりイベント等が一部中止だったため、通常の年はもう少し赤字部分が大きくなる。不足分は動物園の駐車場、レストラン、ギフトショップ等の収益事業の収益を充てるほか、自助努力としてよこはま動物園でスポンサーを募るなどして得た協賛金等を財源の一部に充てている。

- ・マーケティング戦略に関して、来園者の属性（新規・リピーター等）が分析できるアンケートの実施や、非来園者に対しその理由を問う調査を実施しているか。

→来園者に対してはよこはま動物園でアンケートを実施している。非来園者が動物園をどう捉えているかに関しては調査していない。

- ・人材育成・継承について、日頃から職員が色々な役割を担いそのための教育や指導を実施していると思うが、コロナウィルスのオミクロン株が流行った状況においてその計画やマニュアルはどのようになっているか。

→コロナ禍においては全職員、特に飼育職員は毎朝検温し昼食の時間と場所も記録していた。仮に感染者が出て周りが濃厚接触者とならないような対応をとっていた。今年の3月頃までは3園ともに発生ゼロだったが、第6波、第7波で感染者が発生した。通常、飼育職員は担当動物についてペアを組んで仕事をして休みの時は互いに補う仕組みだが、感染者が飼育担当の中で増えてくるとペアだけでは解消できないこともあった。しかしそのようなことに備えチーム内で担当動物外でも対応できるようにしていたため、結果的に複数の感染者が発生しても園の運営に大きな支障がない形で対応できた。

- ・多岐に渡る活動を総合的にすすめていて組織力があると感じた。プレゼン項目それぞれが大変すばらしいと思う。

(今年度実施した視察も含めての全体的な感想)

- ・コロナ禍になり動物園や水族館に行かなくなり、先日久しぶりに動物園に行ったら懐かしく嬉しく感じた。このような思いを感じる人がたくさんいるとよい。動物園はすごくよい場所だと改めて感じた。

- ・普段は表側から見ているため、バックヤードの話など運営の様々な努力は非常に精緻な仕組みの中で行われていることを強く感じた。日々のPDCAが利用者や市民にうまく伝わるようにするためにも、私たち評価委員がそれをサポートできればよいという思いである。

- ・久しぶりに動物園を見学したが、昔とは動物の展示方法や飼育環境も変化していることを感じた。また予算も厳しくやりくりも大変な中、職員の努力によりお金をかけずに工夫されていることを感じた。

- ・横浜の動物園の取組は従来から一つ一つの要素が素晴らしいものが多いと感じていたが、改めて体系的、戦略的な取組がすすんできていると感じた。ひとつ事例をあげると、アニマルペアレントに寄附をした方が高額寄附者となりその関係が継続し動物福祉の向上に繋がっているところなどである。今後もそのような活動が実を結ぶことを願う。
- ・金沢動物園は地元の動物園のような日本の動物を大事にする動物園への調整が進んでいる印象をもった。よこはま動物園が開園し、金沢動物園はミニよこはま動物園のようになってしまうのかと気になっていたが、うまく変身していると感じた。

(指定管理者退室)

(委員意見交換)

- ・少し前まで動物園に求められていた保全に加え、最近は動物福祉も大事である。これから成果を出さなくてはならないものもあるが、すでに成果を出しているものもあると感じた。
- ・飼育現場での取組については、計画評価シートの活用やエンリッチメント大賞の2年連続受賞など評価できる部分が相当あり着実に取り組んでいると考えている。
- ・動物に関する取組（飼育・保全・調査研究）は日本の他園と比べても横浜の動物園3園プラス繁殖センターで、トップクラスであるという印象を受けた。
- ・ツシマヤマネコの繁殖等に関し、WAZAのニューズレターに掲載されたことも含めどの項目で評価するかという課題だが、人工授精の件は論文にもなっており調査研究や日本をリードする取組として高く評価できると考える。
- ・ツシマヤマネコの繁殖はJAZA全体でも繁殖が順調ではなかったため、これからの貢献に対する期待も含め保全の項目でもよいのではないか。
- ・実際に技術が他でも使われることによりツシマヤマネコが増え、その舞台として横浜の動物園が貢献したということであれば保全への貢献と言えるが、現時点でそこまでには至っていないため調査研究項目での評価が妥当と判断する。
- ・保全の項目については繁殖センターも大変貢献しているといえる。カンムリシロムクについても具体的な成果を出しており、ミゾゴイも繁殖センターで増えて金沢動物園に広がっているがこれは評価に含めてよいのか。
 - 繁殖センターで企画をしているがそこだけではうまくすまないことでも、連携できる3つの動物園があることが横浜のよいところである。しかし今回は指定管理に関する業務の評価であるため繁殖センターそのものは評価対象に含まれない。そのため指定管理業務の仕様や評価軸に繁殖センターとの連携について含まれており、その項目で評価をすることができる。ミゾゴイやツチガエルに関しても繁殖センターと連携し実際には横浜の非公開生息地への野生復帰も数回実施している。また金沢動物園が様々なつながりの中で生息地調査をしながら野生復帰に備えている。

→ツシマヤマネコについては、人工で育ち他園に出園後すぐにペアリンクに成功し妊娠した。出産には至らなかったが今後の繁殖にもつながる飼育が行われたと評価ができると思う。

- ・保全の項目で評価できるのは、アマミトゲネズミや金沢動物園の循環型園地保全についてだと思う。これは間違いなく保全の話であり評価することが必要である。保全文化の創出という意味でも評価できる。
- ・オンラインイベントの参加者数が予想より多かった認識というのは、意外だった。オンライン実施なのでもっと人数を集めたいから次は工夫しようということでもなく、また参加者の分析についても聞けなかった。実施することが目的になっておりそこからさらに何かを求める余裕がないのか、もしくは実施することが重要と考えているようで残念である。非常に素晴らしいスタッフがいて様々な動物がいるのにうまく活かしきれていない。
- ・ホッキョクグマの常同行動の研究について、一般的に動物園で飼われているホッキョクグマは常同行動をと思うが、これが研究として成り立つのであればとても面白く情報発信の仕方によっては多くの方の共感を得られると思う。取り組んでいるスタッフが貴重なことをすすめているという意識がないのもったいない。
- ・緊急対応やリスクマネジメントについて、組織として確実に実施している印象を受けた。
- ・人材マネジメントに関して、e ラーニングの説明があったが他は着実に実施している程度であり、動物園マネジメントについても同様の感想である。
- ・現場は大変頑張って取り組んでいることがよく理解できたが、人材マネジメントに関しては具体的な話がなく人材育成ビジョンの改訂についても今年完成予定とのことであり評価の対象としては疑問がある。
- ・人材マネジメントに関して、安定的な雇用と技術継承への努力はあまり感じ取れなかった。
- ・雇用の話は全く出てこなかった。技術継承に関してOJTの実施について説明はあったが、これまでも実施していたことと同様との認識である。
- ・提案書・仕様書に書かれていることの成果を示していたが、それ以上のプラスは人材も含めマネジメントが絡む部分からは感じられなかった。
- ・マーケティング戦略の展開について利用者の現状分析が数字しか出しておらず、結局何をどのように戦略的に実施するか、また意識的に人をどのように動かすか、そしてどのようなターゲットを定めてマーケティングを打つかなどの視点をまだ持っていないと感じた。ビジョンや分析まで至っていない印象である。

- ・アニマルペアレントについて、マーケティング戦略として動物園側がどのような働きかけをしたのかが見えるとよかった。
- ・ファンレイジングの戦略としてみると進歩しているのは間違いないが、もともとベースが低かったと言わざるを得ない部分があり、まだ頑張れるところはある。他都市の動物園では准認定ファンレイザー資格取得に向けた人材育成の取組もある。そのような事例と比較すると体系的、戦略的な取組としてはまだ改善の余地があるといえる。
- ・委員会所見について、評価の確認項目では「〇〇が提示されたか」ということがポイントになるため、少なくとも今回のプレゼンで提示されたものについて書くべきという点について意識を共有しておきたい。

(採点)

- ・評価基準が変わったことにより強みや弱みが、より見えるようになった。指定管理者にも弱みを含めて伝えてほしい。

(評価確定)

- ・評価基準を改めたことについて意見を伺いたい。採点しやすくなったと感じた一方、若干項目がずれている部分もあったと思うがどうか。
- ・他の委員会では事業報告書と照らし合わせて確認したりすることもあるが、今回のように項目がどの採点項目に入るかという紐づけがされているのは、指定管理者にも評価委員にも有益だったと思う。事業報告書と関連させて確認をすすめると、より整理ができるかもしれない。
- ・大変採点しやすかった。今までは指定管理者が評価委員に見せたかった内容の発表であり、評価委員が知りたいことは質疑応答時しか取りあげられずまたデータを持っていないということも多かった。しかし、今回のような整理があるとある程度は確認することができる。まだ評価に対する解釈がずれている部分もあるが、今後だんだん歩み寄っていけるよう期待している。
- ・基準がしっかりしているため評価をつけやすかった。
- ・評価表そのものに不足などがあれば、修正していくことも評価委員の役割であると思っている。

4 令和4年度第2回横浜市指定管理者選定評価委員会会議録

(資料4について説明)

→了承

次回委員会 11月16日(水) 午後開催